

連結面の1UP!

“繋ぎ目”に光を当てる、
ふたつのニューアイテムを試す

SCALE●1:150 (GAUGE●9mm)

製作・本文●佐藤鉄雄

写真●羽田 洋

協力●東豊精工・但馬鉄道模型CLUB／倶利伽羅車両製造

手持ちの模型車両に手を加えるとき、あなたならどこから手をつけますか？ まずはやっぱり、列車の“顔”である先頭部でしょうか。それとも側面、屋上、床下機器…どこを重視するかは人によりけりですが、近年では市販製品のディテール向上、カップラーの進化・多様化に伴って、「中間連結面」も重要な加工ポイントに



なってきた感があります。

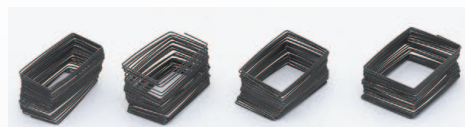
今回、Nゲージ車両の中間連結面のグレードアップを、いわゆるディテール加工とはちょっと違った角度

から実現するアイテムが2種、編集部に届きました。その使用法と効果のほどを、簡単ながら誌面でご紹介しましょう。

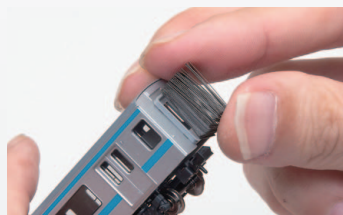
やっぱり「幌」は繋がってこそ！？ 東豊精工の「SP幌(仮称)」

編成モノのモデルなら、中間連結面にはやはり貫通幌が欲しいところ。ただ実物より遥かに急なカーブをクリアせねばならないNゲージでは、貫通幌本来の姿である「繋がった状態」の再現は難しいものです。過去にもスポンジを使った方法や、紙を幌状に折って再現するなど数々の手法が試されてきましたが、今回兵庫県の精

密バネメーカー・東豊精工が開発した「SP幌(仮称)」は、1本の金属線を幌の形に折り曲げ、既存の幌パーツに被せて装着するというもの。早い話が「角型の金属バネ」というわけで、直線ではきちんと繋がって見え、曲線では伸縮性を生かして相当無理な動きにも追従できるアイデア商品なのです。



▲サイズはS(約7mm幅)、M(約8mm幅)、L(約9mm幅)、LL(約10mm幅)の4種、色は黒/グレーの2種を設定。高さはすべて約14.5mmとなる(寸法はサンプル実測値)。5個入1,000~1,500円程度で、今秋~今冬頃に一般発売される予定。さらに外観も改良中の由。



▲既存の幌の外側に被せると、サイズが合っていれば蛇腹モールドと噛み合って支持される。よって取り外しも自在なわけだ。緩い場合は少量のゴム系接着剤などで固定すると良いだろう。



▲既存の幌を支持具に用いるため、左のように幌表現のない車両は、あらかじめ市販幌パーツの接着が必要。右のように幌に突起があるものは、取付自体は問題ないが突起がはみ出す形になるので、カットした方がスッキリする。



◀Mサイズの幌をTOMIX製209系に取り付けたところで、標準のアーノルトカップラー状態。バネ状のため奥の光が多少透けて見えるが、肉眼では幌が繋がっていることの効果の方が大きい。



▲連結間隔に対して幌が長すぎる際は、1ヶ所をニッパーでカットすれば簡単に寸法調節可能。密連型TNカップラーの場合、7~8割程度に短縮するとちょうど良い印象だった。



▲TNカップラーとともに装着してみた例。連結部の一体感がグッと増し、直線状態ではかなり実感的な見た目となる。



◀TNカップラーでの曲線(R317)通過の様子。実物換算で半径47.5mという急曲線でも、幌としての形態は保っている。



◀S字カーブでの様子。実物なら貫通路を通行不可能なほどの偏寄せにも追従する。既存パーツにはない「幌自体の動き」が楽しめるのも魅力だ。

※掲載サンプルは試作品のため、形状・仕様等は変更される可能性があります。